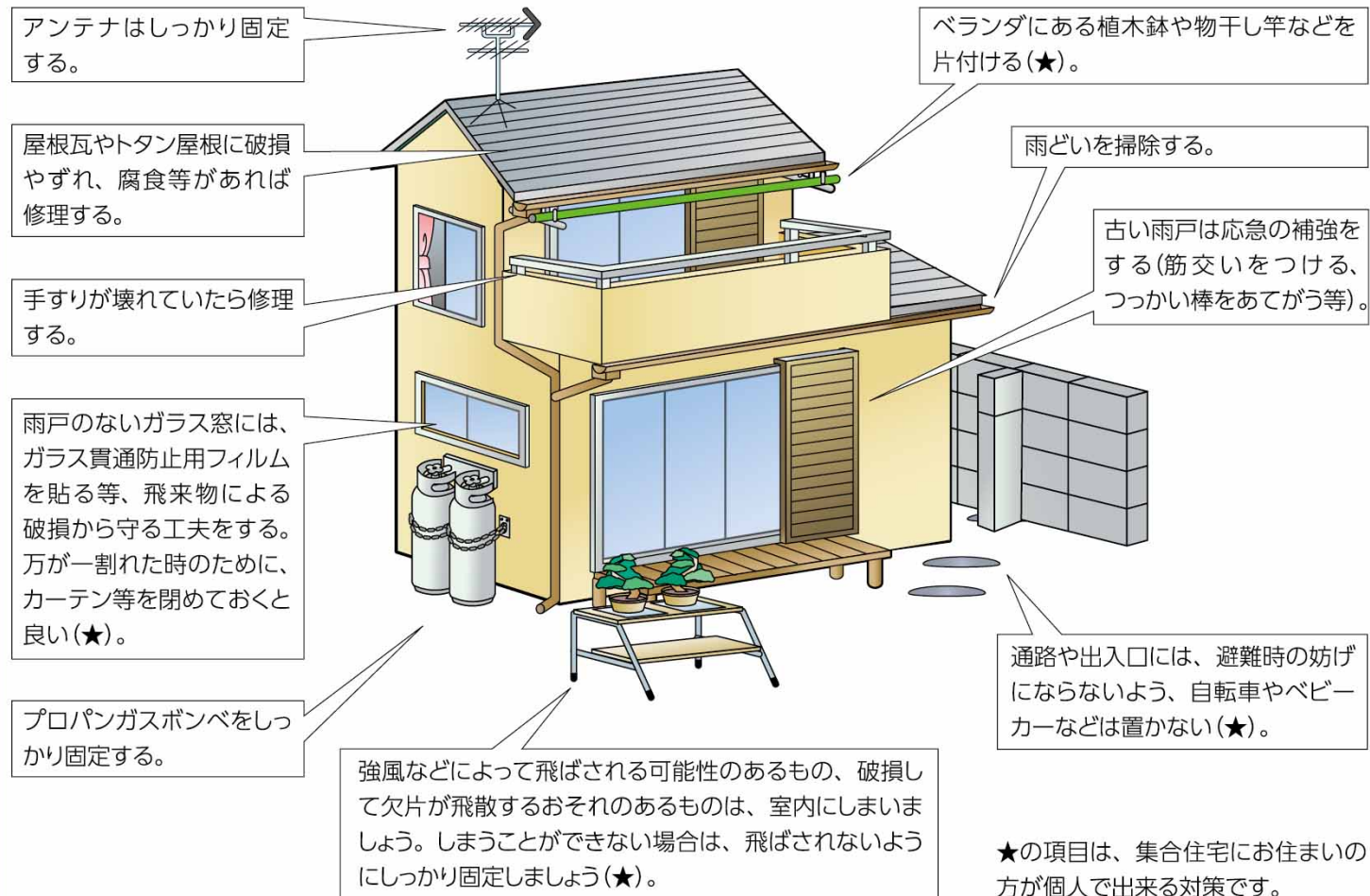


洪水に備える

風水害はある程度予測ができる災害です。最新の防災情報を入手し、準備をしましょう。また、ゲリラ豪雨など突発的な災害で被害がでないように、日頃から備えましょう。

家屋と周辺の備え

気象情報をチェックして、大雨や強風への対策をとることで被害が軽減できます。天候が悪くなる前に防災・減災準備を始めましょう。



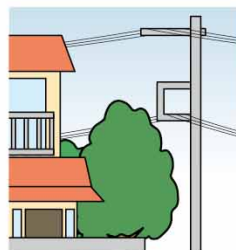
側溝・雨水ますの事前準備

- こめまに掃除しましょう。
- 上にブロックなどは置けません。



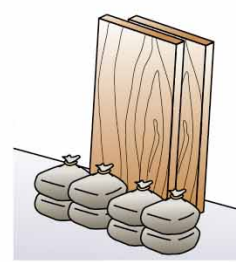
樹木(高木)の剪定(管理)

- 倒木による電線・電話線の断線防止のため、樹木の所有者は伐採や枝払いを行いましょう。



浸水の事前準備

- 土のうや止水版を用意しましょう。
- 半地下・地下室などでは、排水設備(ポンプ)の整備・点検を行いましょう。



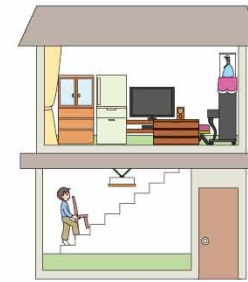
地下空間の危険性

- 水圧によりドアの開閉ができなくなります。
- 流れる水によって階段を上げません。
- 換気口や採光窓などから水が入ってくることがあります。
- 浸水により停電するおそれがあります。
- 激しい雨が予想される場合は、地下空間から移動しましょう。

屋内の浸水対策

家財の移動

- 重要書類や移動できる家財、家電製品などは、高所や2階に移動させましょう。
 - 浸水するおそれのある部屋では、家電製品などのコンセントを抜きましょう。
- ※漏電、ショートなどの予防



排水口からの逆流防止、床下収納からの浸水軽減

- 水のうを風呂場や洗濯機の排水口、トイレの便器の水たまりの上に置きましょう。
- 床下収納のふたの上に水のうや重い物を置きましょう。



簡易水のうの準備

簡易水のうの作り方

- ①ごみ袋などのビニール袋(45リットル程度)を2重にします。
- ②袋の中に半分程度の水を入れます。
- ③袋の中の空気を抜き、口を縛ります。



簡易水のうの使い方(浸水防止)

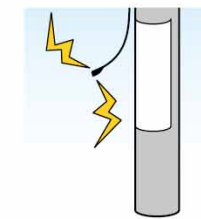
- 出入口などに隙間なく並べます。
- 水のうを段ボール箱などの中に入れて連結すると、強度が増します。



洪水の後の行動

電線が断線していないか確認

- 切れた電線や電話線がないか確認しましょう。
- 発見したら電力会社・電話会社などに連絡しましょう。
- 切れた電線には、近づいてはいけません。



落下物がないか確認

- 屋根瓦やアンテナなどが破損していないか確認しましょう。
- 落下の危険がある場合は、除去・補修をしましょう。



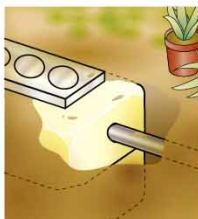
危険物の確認・除去

- プロパンガスボンベの転倒や破損がないか確認しましょう。
- ガスや石油などの漏れ出しがないか確認しましょう。
- 危険を発見したら、周囲の人とガス会社、消防署に通報しましょう。



浄化槽を確認

- 断線がないか、蓋が外れていないか、薬剤筒が倒れていないか確認しましょう。
- ポンプやブロー(送風機)、浄化槽上部のコンクリートに破損がないか確認しましょう。



衛生対策を徹底 <水害の片付けの基本は、汚れ除去 → 乾燥 → 消毒>

室内

- 室内は、泥や汚れを入念な洗浄や拭き取りで取り除いた後、消毒しましょう。
- [例] 食器・調理器具…洗浄
冷蔵庫・食器棚…拭き取り
床・壁…水道水による洗浄後、風通しを良くして乾燥させる

※消毒の際は、長袖、長ズボン、手袋、マスクなどで皮膚に消毒液がかからないようにしましょう。

室外・床下

- ①汚泥や土砂など、流入した瓦礫などを取り除きます。
 - ②水道水で洗い流し、風通しを良くしてしっかり乾かします。
- ※湿気が残ると家の基礎や土台を傷めます。